

河川におけるコクチバスの産卵の特徴

臼杵崇広・酒井明久・田口貴史

1. 目的

県内においてコクチバスの分布の拡大が危惧される河川でその産卵状況を把握した。

2. 方法

河川 A (湖東地域) のおよそ 230m の区間において平成 29 年 5 月 17 日から 7 月 27 日までおよそ週に 1 回の頻度で陸上から産卵状況を調査した。水深 100cm までの産卵床については流速を測定した。併せて投網や水中銃により調査区間において本種の捕獲を行った。

3. 結果

調査期間中の水温は 15.7~22.2℃であった。産卵床は 5 月 17 日から 7 月 20 日まで確認され、その期間中の水温は 15.7~20.4℃であった。しかし、7 月に入ると産卵床は不明瞭な場合がほとんどであった。産卵床が確認された地点はすべて周囲に枝やブロックなどの障害物があった (写真 1)。産卵床が作られた地点の流速は 3.2~5.6cm/s であり、そのうち 4~6cm/s が 58.8% を占め、産卵が確認されたのもこの範囲であった。また、産卵床が作られる水深は 34cm から 150cm 以上であり、そのうち 80~100cm が 42.9%、60~80cm が 28.6% と大部分を占め、産卵が確認されたのもこの範囲の水深であった。100cm 以上の水深に作られる産卵床は 21.4% を占めた。しかし、陸上からの調査であったためこの水深では産卵は確認ができなかった。産卵は 6 月 15 日と 6 月 29 日に確認され (写真 2)、水温はそれぞれ 18.9℃、20.4℃であった。

産卵床を破壊しても、次の調査以降に再度産卵床が作られることが多く、好んで同じ地点に産卵床を作っていると考えられた。

調査期間中に捕獲された本種は 12 尾であり、雄 7 尾 (標準体長 223~264mm、GSI 0.36

~1.73)、雌 5 尾 (標準体長 141~266mm、GSI 0.44~9.71) であった。

産卵床に執着している個体は捕獲しやすく、一度捕獲に失敗しても戻ってくる場合が多く、あきらめずに待てば大半の個体を捕獲することが可能であった。



写真 1 ブロック (左手前) の近くに作られた産卵床

写真 2 産み付けられた卵

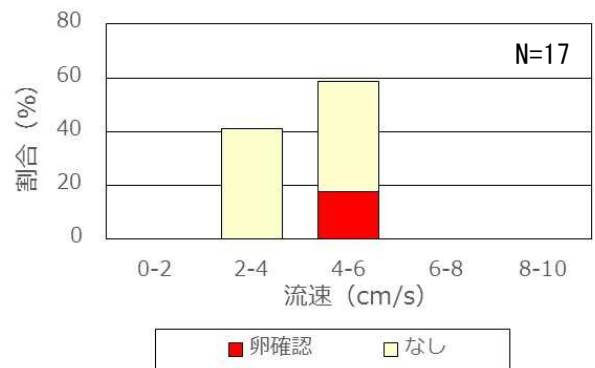


図 1 産卵床が確認された地点の流速範囲の割合

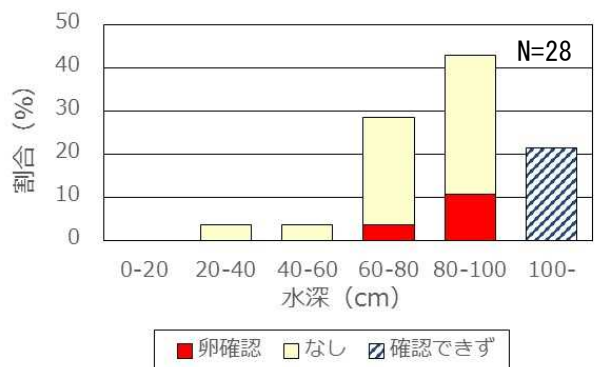


図 2 産卵床が確認された地点の水深範囲の割合